

パブリックコメントに寄せられた意見について

■実施期間:令和5年12月5日(火)～令和6年1月5日(金)

■提出者:2人(方法別内訳:持参1件、投函箱1件)

提出者	意見	寄せられた意見	市の考え
1	①	<p>自殺対策推進計画を行政が推進することは必要なことだと考えるが、自殺を自分に関係のあることと捉える方も少ないため、行政には相談先の周知など強化してほしい。</p> <p>また、子ども達が学校で悩み事を相談しづらい環境にあると感じており、スクールカウンセラーへの相談も担任を通して予約しないと出来ない状況にある。担任には聞かれたくないが悩み事は相談したい生徒もいるため、生徒が気軽に相談できるよう仕組みに変えていくことも検討いただきたい。</p>	<p>相談先の周知につきましては、本計画に記載の「第3章 多摩市における今後の取組の方向性と施策(いのちを支える自殺対策における取組)」に基づき取り組んでおります。</p> <p>子どもが安心して信頼できる大人に相談することができるよう、これまでも長期休業日前を中心として、各校で直接相談することができる相談先を児童・生徒に周知してきていますが、改めて、その内容が子ども達に伝わっているのか確認した上で、適切な相談先の周知及び啓発を進めてまいります。また、スクールカウンセラーへの相談については、担任を通さなくても直接申し込んだり、担任以外の教員を通して申し込んだりする体制としています。このことについて、改めて各学校を通じて保護者に案内を行うとともに、仕組みが出来ていても知られていない現状にあることがわかりましたので、引き続き周知の仕方について検討していきたいと思っております。</p> <p>現在改定中の第2期自殺対策推進計画では、「子ども・若者」を重点施策に市独自に加え、子ども・若者向けの自殺対策の充実化を図ります。</p>
2	②	<p>自殺は本人の精神面や人間関係など個人の問題が大きく作用し、行政が関与することで自殺を踏み止まらせるほどの効果は得られないのではないかと感じている。一方で、自殺念慮のある方がいる場合、それを心配した周囲の方から民生委員に相談されるケースもあり、相談先を市民に対して正しく周知することは必要なことだと考える。行政には、悩みを抱えている人が何に困っているのかを把握し、適切な相談先を提示・案内できるように相談を受け止める体制を整えていただきたい。民生委員も地域のゲートキーパーとして取組を行っているが、具体的な話を聞けるほどの信頼関係を築くには時間が掛かり、また、民生委員という立場だけで信頼が得られるわけではない。人柄も含めて人として信頼を得られないと正直な気持ちは話してもらえないため、今後地域でゲートキーパーを増やしていくのであれば、その役割が非常に重要なものであることをもっと示すべきだと思う。</p>	<p>市では自殺念慮を抱える方の相談を受けた際に、こころの悩みや病気に関する相談先を本人がご相談しやすいように市内・市外問わず幅広くご案内しています。相談の中で具体的な事項が確認できた際には、所管する担当部署へつなぎ、問題解決に向けて対応しています。第2期計画では、複合的な事案にも対応できるよう「多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会」を設置し、受け止める体制の整理を進めています。</p> <p>市としてこれらの施策に取り組んでいますが、市民の方や関係者も含め、まだまだ情報が行き届いていない部分が多くあると認識しています。そのため、ただ周知を行うだけでなく、行っていることが必要な方に、周囲に伝わるように創意工夫を凝らして取り組んでいきます。</p> <p>ゲートキーパーの育成・周知については、その役割の重要性も含め、今後も講座や広報等での周知活動の強化を図ります。</p>